

大学の英語の授業で
学ぶ学生にとり、
どのような英単語が
習得しやすいと思われますか？

たとえば、
ある大学の英語授業では、
以下の単語が扱われました。

cons

dull

hand-eye coordination

knight



Q1

どの単語が学習
されたでしょうか？

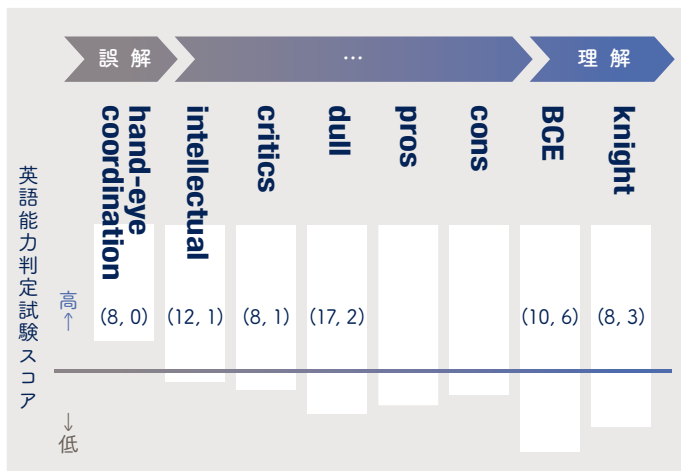
答えは中面P2へ →

※授業はすべて英語で行われました。授業の詳細は中面をご覧ください。事前に行われた単語テストの結果によると、もともと学習者はこれらの単語を知らなかったか、あまり理解できていませんでした（正答率5-14%）。Knightの正答率に限っては38%でした。

Q1

ある大学の英語授業で 学習された英単語は？

※Q1の詳細は、表紙をご覧ください



※カッコ内の値:授業中に教員・学生により(英語で発話された回数、日本語訳で発話された回数)

※Pros・Cons: 議論するアクティビティーで多用

※単語テスト(事前・事後1)の結果をもとに算出

A1

Knightが 一番理解しやすかった。

Hand-eye coordinationが一番誤解されて学習されました。

Q2

なぜ、上の図のような 結果になったのでしょうか。

※この授業や研究方法についてはP3をご覧ください

図の通り、「授業内でその英単語を
教員・学生が発話した頻度が要因」ということではなさそうです。

たとえば、criticsもhand-eye coordinationも
教員により英語で7~8回発せられましたが、
学習者の理解度には差が出ました。

Q2の答えは、P4をご覧ください →

研究方法

研究では、授業およびデータ収集を以下のスケジュールで行いました。

	授業内容	データ収集
2015年 4月		英語能力判定試験(事前テスト)
7月		英語語彙サイズテスト(7月15日) 実験参加同意書
10月	History (Trip to Antarctica) Biology (Genetically modified food)	単語の事前テスト(10月28日)
11月	Original book vs. Movie Media (SNS)	授業音声の録音
12月	Technology (Robots) People and Technology	単語の事後テスト①(12月4日)
2016年 1月		英語能力判定試験(事後テスト) 単語の事後テスト②(1月22日)

※語彙サイズテストはNation & Beglar (2007) とNation & Gu (2007) を用いた

同じ教員が、英語で一年間指導しました。

英単語の意味を指導する時、和訳を同時に発する時もありました。

学習者は、本英語コースの主テーマ

“People and Technology”について受講し、

「遺伝子組み換え食品」や「SNS」といったトピックに関連する
アクティビティーに取り組みました。

研究では、このコースで収集した以下のデータを分析しました。

- 英語能力判定試験のスコア(事前・事後)
- 英語語彙サイズテストのスコア
- 教員と受講生の発話データ(授業の録音)
- 発話データの文字起こし
- 目標英単語のテストスコア(事前・事後1・事後2)

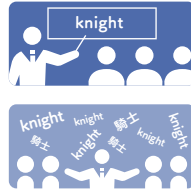
※目標英単語:授業前、教員が指導すると予め用意していた語

- アンケート結果(学習者が、各授業後に
授業中に学習したと感じた英単語を思い出し記入)
- 上記アンケートで収集した英単語のテストスコア
(事後1・事後2)

研究では、主に次の3点が明らかになりました。

1 学習しやすかった英単語

教員が英単語を授業中に導入後、多くの学習者がその語を発し（音声・文字ともに）、和訳も発せられた。



教員・学習者全員が英単語を授業内のアクティビティーで活発に用いながらコミュニケーションをとった。

2 ある程度学習された、あるいは、誤解して学習された英単語

教員が英単語を授業中に導入・説明※後、学生数名が意味を説明あるいは訳し、学生数名が授業内で利用した。



教員の口頭による説明※では意味が伝わりにくい専門用語であったり、同音異義語がある語や、抽象的な語であった。



主に、教員が教壇に立ち受講生全体に対し単語の説明をした。または、グループワーク中に1〜2グループのみがその英単語を用いて取り組んだ。



※教員は英語のみ利用

3 英語能力判定試験スコアの影響

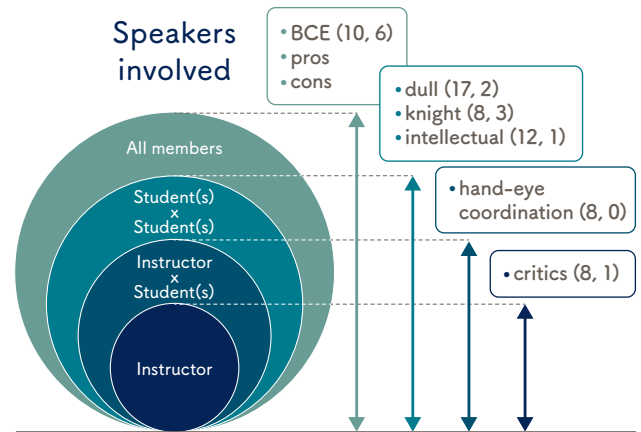
スコアが高い学生の方が単語をより理解した。



スコアが低い学生は、単語テストで空白が目立ち、彼らの誤答を確認すると単語のある側面に着目して答える傾向にあった。(consを「とうもろこし」と訳す、knightを「夜」と訳す、など)



語彙理解に至った発話とは？
至らなかった発話とは？



※カッコ内の値：授業中に教員・学生により（英語で発話された回数、日本語訳で発話された回数）
※Pros・Cons：議論するアクティビティーで多用

特に学習された語彙（BCE, pros, cons等）は、

授業内タスクで教員・受講生全員がその語の文字・音声面を扱い発したり読んだり聞いたりし、
活発に用いる必要のあった語彙であった。

一方、受講生のパフォーマンスが芳しくなかった語彙

（critics, hand-eye coordination, intellectual等）は、

教員が受講生に一方向の説明を続け、口頭による説明では意味が伝わりにくい専門用語であったり、同音異義語がある語や、抽象的な語であった。

この授業の詳細

都内大学の一年生22名（CEFR A2レベル、男性16、女性6名）が受講した必修英語授業で、内容言語統合型学習（Content and Language Integrated Learning: CLIL）という指導アプローチを用い、授業は週二回（各90分）行われました。

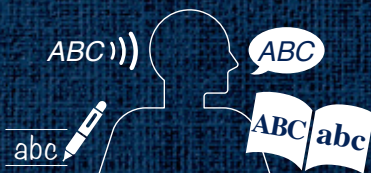
※その他詳細についてはP3をご覧ください

語彙力はコミュニケーション能力を
向上させるために重要なスキルです

学習者の皆さん、
4技能を活用して言語能力を育成しよう!

教員、教育関係の皆さん、4技能を活用する
教育の実現に向け一緒に取り組みませんか?

※4技能とは、「聞く」「読む」「話す」「書く」という4つのスキルのことです



学習者の皆さん、教育関係者の皆さんにとり
参考になる情報をサイトに順次公開します

Satomi Lab さとみラボ <https://satomilab.com/>

QRコードでサイトに
アクセスいただくと
本研究に関する論文のPDFも
入手できます



お問い合わせ先

藤井 里美

(順天堂大学国際教養学部助教)

〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1 TEL:03-3813-3111 (大代表)

※上記サイト「お問い合わせ」よりご連絡ください

日本で学ぶ高校生・大学生に英語指導を続けております。
これまで行った研究も、主に高等教育機関における外国
語教育に関するものです。現在は、順天堂大学と上智大
学大学院で外国語や応用言語学を指導しております。